# シリーズ阿蘇の文学碑めぐり④

取材協力　中村道則氏

歌碑　高群（たかむれ）逸枝（いつえ）

「さびしさは肥後と豊後の国ざかい
境の谷の夕ぐれのみち」

歌碑所在地　妙光寺（波野　小園地区）

＊鈴木章彦　書

＊平成2年、妙光寺住職（塚本光俊氏）建立

日本初の本格的「女性史研究家」である高群氏が、四国八十八ヶ所巡礼の旅で、波野を通過した際詠んだ歌。旅は大正7年6月4日、熊本市京町の専念寺を出発し、11月22日まで行われました。波野通過日は6月6日。大分との県境、波野の通称「境の谷」に当時在った妙光寺に立ち寄ったことを記念したものです。

～巡礼の旅の文中から～　当時の波野を偲ぶ

「坂梨を出ると火口壁の内側はここで尽きて、外側はきわめて緩傾斜の裾野を引いて、波浪状の高原をなしている。そこには波野原という一眸千里の草原がある。そのすこし先の境の谷というところに国境標が立っていた。雨もよいの湿っぽい大気が、霧のようにしらじらと漂っていた。」

**高群（たかむれ）　逸枝（いつえ）**（1894～1964）

女性史研究家･詩人。熊本県松橋生まれ。代用教員を24歳で辞し、四国巡礼に旅立つ。九州日日新聞に「娘巡礼記」を百余回連載。詩人としての才能を持ちながら、婦人や弱者のため盛んに論争を重ねる。女性史を深く研究しその成果として「大日本女性人名辞書」「女性の歴史」「招婿婚の研究」などを発刊。四国巡礼の記は、「火の国の女の日記」に掲載。

歌碑　山口（やまぐち）　白陽（はくよう）

「晴れて山田の田圃はみどり
川は黒川　黒ながれ　誰がつけたか千石橋の　実りうれしい秋を待つ」
（阿蘇音頭の一章）

歌碑所在地　今町三の宮境内

＊　山口白陽氏の長男純彦氏書

＊　平成6年阿蘇郷土の会建立

山口白陽　顕彰碑

山口氏の功績を称えた碑が、宮地（分1区）の山口白陽氏が住まわれていた場所に、発起人会の皆さんにより、平成10年、建立されています。

碑の文字は、書道家の井田峰月氏が書かれています。

**山口（やまぐち）　白陽（はくよう）**（1898～1980）

作詞家。　一の宮町坂梨生まれ。本名は山口経光。小学校教師を勤めながら作詞活動を手がけ、「火の国小唄」「阿蘇音頭」「阿蘇小唄」などの作詞家で知られる。県内の小中高校、大学などの「校歌」作詞数は300校を超えるほか、小説や熊本の方言研究書も執筆。　特に昭和42年発刊の「大阿蘇めぐり」は阿蘇の観光名所を歴史やエピソードなども加えて要領よくまとめられ、まさに、今ブームの観光情報誌のはしりといえる冊子。このように、氏は阿蘇の文化に潤いと新風を与えた偉大な人物です。

## 「阿蘇まるごと検定公式テキストブック～阿蘇の達人～」を読んで検定合格を目指そう！

## テキストブック好評発売中!!

阿蘇まるごと検定実行委員会では、平成23年春の九州新幹線全線開業を見据え、阿蘇地域の魅力を情報発信するとともに、地域のホスピタリティーの向上を図るため、来年2月に「阿蘇まるごと検定」を実施します。その参考書としてふさわしいテキストが作成されました。一冊1,500円で書店などで販売しています。

ぜひ、ご覧になって、阿蘇の達人になってください！

**お問い合わせ**　阿蘇地域観光推進協議会事務局･阿蘇まるごと検定実行委員会
TEL　22－3903（阿蘇地域振興局総務振興課内）